皇輝遍照

赤魔の正體を見よ

◎祖國は吾等の生命なり
◎「さわらぬ神にたゝりなし」とは不忠實なる國民なり

顯國會發行

ルイ十六世皇后曰、「マッソン結社に注意せよ、此の惡魔は同一の方法を以て各國の革命を達成せんとして居る」

ナポレオン曰、「猶太人は我が佛國を喰ひ盡さねば止まない毛蟲である」

カイゼル曰、「獨逸を滅亡させしめたものは猶太人であつた」

ムッソリーニ曰、「吾の恐るべきは社會主義に非ずして實にマッソン秘密結社なり」

アイスネル曰、「バイエルンの革命は我等十一名の猶太の手で成遂げた」

現獨逸國民の叫、「獨太人は全國民を奴隷化せしめんとする惡魔だ」

又　曰、「獨逸國民の日々は猶太人問題である」

歐洲人曰、「猶太人の財寶は鮮血の財寶なり」

巴里平和會議員曰、「今回の會議は猶太人の献立會議だ」

某英國人曰、「猶太人とマッソン秘密結社を知らざれば、首相たる資格も外相たる資格もなし」

目次

世の中の總ての事が虚であつても、自分自身が現存する事に限つてつは誰しも事實として信ずる事が出來やう。而して自分自身が兩親の子である事についても何等の疑はなく、已れの兩親も夫々其の親の子であることに異說はあるまい。

斯くの如く親から親と逆つて考へる時に、何千代か何萬代かの上に我等の最初の祖先がある事は信ずるに難くない。

然らば此の最初の人間たる我等の祖先はどうして生まれたか。それは大宇宙生命の靈力たる「神」に依つて成つたので、吾人は此の神を　天照大神と白し奉る。即ち我等日本民族の始祖は神の大御寶として此の土に生まれたのであつて、今吾等の心臓にどよめく血潮は幾萬年來一分一秒たりとも冷めた事なく幾百千代の祖先を連ねた尊い血其者である。

神と人との關係

斯くて神と人とは親子の關係に立つて居るのである。然して親の子に對する愛は絕對であつて、叱るも打つも其の子を愛すればこそである。即ち我が子に完全なる生命

の力を與へんがためである。故に「親の心子知らず」で、親の心に反抗する時其の子は已れの死に向ふの第一歩である。

何故ならば親の心に背く事は歸する所神の心即ち神が人間に與へた生命の力に反するからである。

皇室と皇道

畏くも我皇室は　祖神の直系にましまし、臣民は其の分御靈の末に當るを以て國民は皇室を宗家と仰ぎ、歷朝の天子を國父と仰ぎ奉る。即ち我國の家族制度は直ちに國家に當て措まるのである。

而して我皇道精神は神の人に對する心即ち親の子に對する情であつて、天皇の民を愛し給ふ大御心は絕對且最大なるものであつて、歷朝の天皇は畏くも臣民を大御寶と呼ばせ給ふのである。

日露戰爭當時　內親王殿下が　明治天皇に御服裝の御新調の事を申出させられた時陛下は「朕が赤子は今滿洲の野に强敵と戰ひつゝあり、衣服の如きは今有る物もて

間に合はすべし、朕にとつては朕が實子と國民とに些の差別なしと」仰せられたと洩れ承はる。

日本の民族關係

同一の神から出た日本民族が兄弟姉妹の關係に立つ事は極めて見易い事である。即ち我日本民族は手綱を皇室をする投網に譬へる事が出來る。其の各時代の國民の各々は投網の各結び目であつて、其の結目同士は悉く密接なる關係に繋がれ、然かも各結び目を繋ぐ糸を傳つて元を辿れば必らず手綱に歸一するのである。

然かも各人の結婚に當措めても或夫の祖先と妻の祖先とは必らず或一つの結び目に繋がれて居るのである。

斯くの如くにして我日本民族は名實共に四海兄弟であつて、皇室を中心に總ての家族、總ての人が密接離るべからざる連鎖を保つて居る。

斯くも尊く且つ健全な國家は世界中何處を索めてもないのである。

神洲日本民族奴隷化の陰謀

我神聖なる國體を否認する共産主義者が日本國土に然かも我等と國籍を同うし、我等と同時に存在する事は、我等の最も恥辱とする所である。

彼等の一味が現に司直の手によつて裁かれつゝある事は諸君が熟知する通りであるが、吾人は彼等が検擧された爲めに、彼等の根が絶えたと安心してはならぬ。其の後にも數多の同類が社會に殘つて居る事を記憶して置かねばならぬ。見よ、年中絶え間なき大小の勞働爭議、小作爭議、はては反帝國主義運動、朝鮮獨立運動、反宗教運動等々何十種といふ變つた形の反國家反社會運動が行はれて居るではないか。

然かも近來特に吾人の耳を峙だてしむるものは、全國各地方學校の騒動であつて、殊に本年十一月七日のロシア革命記念日の如きは東京帝大、早稲田大學、京都帝大を初め其他の高等專門學校に大小幾多の騒ぎが起つて居る。而して、特にロシア革命記念日を選んで思ひ合したやうに是等の騒動が起つた事は、直ちに猶太人と密接な關係がある事を物語るのである。何故ならばロシアの革命は猶太人に依つて行はれ、ロシア

一億五千萬人を支配して居るのは猶太人四百五十萬中の何者かである。

又此の外にも一高、三高、新潟高校外二三の高等專門學校では、運動部廢滅の陰謀が暴露し、富山高校、高岡高商にも騷ぎが起り、殊に高岡高商の如きは滿洲問題に絡んで、野外敎練を忌避するなど、彼等の血迷ひ振りは實に目に餘るものがある。

我國の將來を脊負ふべきこれ等の學生の此の狂態を見る者、誰か安如として放任する事が出來やう。併しながら、是等の學生は要するに猶太人の煽動敎唆に依る社會主義者の使嗾によるものである事情が明確に判明して居る以上、强ちに彼等の行爲を責むる事は萬全の策ではない。宜しく役等を敎へて誤まらないやうに導かねばならぬ。

此の種の運動たるや結局は我神洲日本民族の奴隷化運動に外ならないのであつて、モスクワの共產學校を出で、續々として日本に歸つて來る共產黨の一味が、猶太人の奧の手たる潛行的煽動戰術を以て純眞なる青年學生の魂を奪ひつゝあるもので、有爲なる青年の前途を葬るの外、惹いては國家に累を及ぼす事となるは勿論である。

日本國體を變革し、日本民族を赤露の奴隷化せんとする日本共產黨のテーゼは左の十三ケ條からなつて居る。

一、〇〇制の廢止。二、議會の解散。三、十八歳以上男女の普選。四、言論、集會、出版の自由。五、一切の反勞働農民法の撤廢。六、八時間勞働。七、資本家全額負擔の失業保險。八、〇〇、寺院地主沒收。九、高度の累進所得稅。十、ソビエットロシヤの防衛。十一、支那革命の不干涉。十二、戰爭に對する鬪爭。十三、植民地の完全なる獨立。

右のテーゼを一見したばかりで、彼等共產主義者の恐るべき目的がわかるであらう然かも是の運動が猶太人即ちロシアと如何なる關係を以て居るかは次の二つの事柄を以て承知する事が出來る。即ち共產ロシアの一有力者たる一猶太人の手記に「極東に於ける日米兩國の資本的活動の結果を利用しつゝ、日本に共產主義を植付ける事は勞農ロシヤ共產國の使命なり」とある。

又彼等は現に進行中の共產黨被告事件の成行に就いては非常なる注意を拂つて居るのであつて、彼等一味が檢擧された後、農勞ロシヤ政府は左の驚くべき事項を決議した。

一、日本共產黨事件の爲め生活難に陷つたものに對しては救濟金を送り、慰安を與へ

る事は將來に於ける革命事業に最も有利なるべし。

二、日本青年主義者をして、可成的に入營せしむるやうに仕向け、軍隊内の主義宣傳をなし、若し事件の内容暴露し、處分を受けたる時は、本人又は其の家族を擁護する事

三、日本の政黨又は全國民を使嗾し、國會に於て日本の治安維持法を廢止すべく積極運動を實行するに當り、日本共產黨より一萬圓、第三國際共產黨より三萬圓を支出し運動費に充當する事。

四、日本朝鮮の言論機關に於て、一般資本家又は工場主、並に地主等に攻擊を加ふる事。

五、日本帝國資本家内の各工場農場等に主義者を參加せしめ、資本家味方の假面の下に勞働群集に赤化を圖る事。

因に、第一國際共產黨　西曆一八六四年創立、同一八六九年潰滅

第二…………………一八八九年同、同一九一六年同

第三…………………一九一九年同、　現在に及ぶ

日本赤化の二系統

同じく日本を赤化しやうとする運動にも、二つの系統がある。其の一は露國系であつて其の策源地をハルビンに置き、他は米國系であつて其の根據地は上海である。

露國系の赤化運動は左傾的過激派であつて、米國系のものは右傾的のものである。

而して露國系の過激派は直ちに日本の國體變革を目的とするものであつて、現在の共産主義の一味は即ち是に屬するもので、彼等は密かにモスクワの共産學校に入つて直接に指導を受け、眞赤に染つて內地に潜入し猛烈なる潜行運動に從事するのであつて第三國際共産黨から運動費を受けて居る事は今秋法廷於て裁判長の追及を受けて一被告が明確に肯定した通りである。

西暦千九百二十年、レーニンが發した露國系赤化計劃の東洋政策中日本に關するものを示せば

（イ）目下過激派に反對するは日本及び佛國のみ。されど佛國は其の國內勞働者を煽動すれば直ちに吾人に共鳴せん。

（ロ）日本に對しては先づ朝鮮を顚覆し、且つ米國が過激派との通商を開始せば、支那の現狀より推して、極東に於て必らずや米支日三國の政治經濟其他各種の衝突を來すべし。玆に米支を使嗾して日本を壓迫せば日本は直ちに過激派に和を乞ふに至らん。

とある。其の後十年を經過したる今日、滿洲は勿論、支那全土に亘つて日本の感情はどうなつて居るか。背後より奉天派を使嗾敎唆して日支間の係爭三百餘件に上り、中央を煽動して日貨排斥の暴擧絶ゆる暇なく、遂に今次の滿洲事を惹起せしめ、奉天黑龍軍を煽動し、武器を供給するなどの歷然たる事實がある。

然かも、彼等は滿蒙に對する列强の侵入を好まず、極力之れが排除に努めて居る。即ち過日露國のプラウダ紙は次の如き社說を掲げた。

「露國の平和主義は、露國社會主義の構成を破壞せんとする企圖を罰せずして放置することを意味するものに非ず。吾人は日本に對して、勞農國に騷擾を惹起せしめんとする支那に於ける日本の競爭者の占領を拒否すべきことを提言する。

日本は米國其他の帝國主義的國家がかけたる穽に陷りつゝあるもので、米國は滿洲

に於ける日本の反露陰謀を滿足を以て迎ふべきは言を俟たぬ。何となれば、日露兩國關係の緊張は直ちに太平洋上に於ける日本の地歩を弱らしむるからである」と、親切か不親切か。蓋し彼等には日支間に事を構へさせて動亂に導き、世界各國を其の渦中に捲き込み、已れは火事場泥棒的に金儲をなしつゝ支那に恩を賣り自由に支那領に軍隊を動かし、後日の爲めに地盤を築ぎ、一方日本を經濟的に思想的に紛亂させて彼等の最後の目的を達成するために狂奔して居るのである。

世界大戰は猶太人の陰謀

世界大戰即ち歐洲大戰の責任を舊獨逸皇帝カイゼルのみに歸する事は半可通の所論であつて、カイゼルに對して餘りに酷である。法外の野心家であつた事は否定すべきではないが、此の野心が却つて猶太人の利用する所となつて遂に國を滅ぼし、身をちゞむるに至つた事を思ふ時、吾人は寧ろ同情に堪えないのである。

猶太人の世界征伏運動に就いては屢々述べた通りである。然して往年の世界大戰が彼等猶太人の世界征服の一楷梯であつた事を聞く時、諸君は諸君の耳を疑ふのであら

う。

猶太人が大戰の計畫を立てたのは、大戰勃發を逆る四年前の事である。彼等の主たる目的は歐洲に於ける各君主國を崩壞せしむるにあつた事は勿論であるが、其の直接の目的としては凡そ次の五項であつたのである。

第一、全歐洲の崩壞

第二、基督敎及回々敎の打破

第三、全世界の攪亂

第四、パレスタインの奪還

第五、歐洲に於ける黃金の獨占

即ち歐洲に於ける諸帝王國を瓦解せしめて彼等の自由になる共和國又は勞農共產國となし、戰爭に依つて各國の財政を破綻に陷らしむると共に軍戎品の賣付と戰後の革命に乘じて各國の財貨を掠むる事。千數百年來の敎敵キリスト敎及び回々敎の撲滅。彼等の故國パレスタインの復活。而して第一及第五に依つて彼等の最後の目的たる世界征伏戰の準備となすにあつた。期くて彼等は四年の間其の機會を狙つて居た。

然かして、當時中央亞細亞殊に猶太人の故地パレスタイン地方を中心として、獨、英、米は特權爭奪に狂奔して居たのであつて、獨逸はビザンチウム、伯林、ベンガル灣を繋ぐ鐵道を敷設せんとし、英國はカイロ、喜望峯カルカッタより將來支那に亘る大鐵道計畫を有し、米國は亞米利加、亞細亞、アラスカを結び結けんとの計畫があつた。

然るに獨逸は一九〇六年カイゼル自ら土耳其を訪問して皇帝アブドル・ハミッドを說き、バグダッド鐵道敷設權を得、土耳其は獨逸の後援に依つて大に勢力得をて來た。回々教國土耳其が勢力を得る事はバルカン地方の小キリスト國等の大に喜ばない所であつたが、遂に獨逸に機先を制せられて不平滿々たる英國及び米國の後援を得てセルビアの爲めに土耳其をしてマセドニアを割讓せしめた。

此に獨逸の同盟國たる墺太利はマセドニア獲得によるセルビアの領土擴大を喜ばず獨逸及び土耳其と策應して機を窺つて居た。

虎視眈々として他國の擾亂を狙ふ猶太人、殊に四年が間好機到れかしと待ちに待つて居た彼等は一九一二年墺國皇儲フランツ・フェルヂナンド暗殺の計畫を議し、一九

一四年修交を目的にセルビアに行啓を仕組み、マッソン員たる猶太人ガブリロ・プリンチップをして皇儲及び同妃殿下を暗殺せしめ遂に彼等が目的とする歐洲崩壊運動の火蓋を切つた。

見よ、歐洲の全土は名實共に修羅場と化各國各國民は全く息も絶え〳〵になつて戰ふが中に第二の猶太國とも云ふべき某國は冷然として三年間を見過ごし、其間兩軍に軍需品を賣つて五百億弗の巨利を收め、最後の瀬ぎわとなつて正義に味方すとて參戰し、一方時の印度總督であつた猶太人リーデング卿と結んで猶太人ウィルソンをして平和を主唱せしめ、偖て平和會議に於ける各參戰國の代表は殆んど猶太人であつて、當時佛國人は平和會議を「猶太人の献立會議」と皮肉を云つた位であつて、會議の內外の猶太人等は自由自在に飛躍して、悉く彼等に有利なる解決をつけたのであるが尙、ウィールホンソンをして國際聯盟を主唱せしめながら米國を脱退せしめて他日華府會議を開く口實を作つて置き、更に戰爭に備へて居るなど、猶太人は其の最後の目的達成の爲めに深慮遠謀めぐらす事如斯である。

猶太革命の目的と其の手段

猶太革命の目的は、シヨン(猶太)系統の帝王を戴く全世界猶太帝國の建設にある。

猶太人は國家として最も理想的で且つ最も强力なものは、專政々治による君主國であるとして居る。卽ち彼等の目的とする將來の國家は、ダビデ王統の專政君主を戴く全世界帝國である。

此の目的を達するには、彼等は先づ其の最も强力なる敵であり障碍物である非猶太人の君主國を破壞しなければならない。故に彼等は威壓、買收、欺瞞、煽動、誘惑等有らゆる手段を以て、非猶太人の國家を混亂に陷れ、革命を起させて君主制治を叩き潰し、一とまづ彼等の自由になる共和國となし、次に恐怖政治を布き、全世界の人間が厭應なしに彼等猶太人の足下に跪づき、進んで世界統治の權力を捧げなければならないやうに仕向けるのである。

而して、次に揭ぐる猶太政綱は、彼等が極秘に附して居る革命誘發の手段である。

猶太政綱

一、黄金を獨占する事。その黄金は有らゆる物を購入する事が出來る。（而して彼等はすでに倫敦、紐育の世界二大取引所を其の勢力下の置き、世界に於ける金の三分の二と世界財産の四分の三を握つて居る。）

二、印刷物を占有する事。其の手段に依つて非猶太人を墮落させ、馬鹿と化し、且つ騷亂を惹起させる事が出來る。（而して、彼等は既に世界に於ける新聞、雜誌其他の言論機關の九割を手中に收め、今や世界の輿論を左右し、世界の思想界を完全に支配するに至つたのであつて、社會擾亂の危險思想を蒔いて居る）

三、自由思想、懷疑、破壞の目的を以てする破戒の觀念を非猶太人に接種する事。（最近の反宗教運運を見よ）

四、基督教僧侶に對する戰鬪を惹起する事及び僧侶に嘲笑、誹謗並に疑惑を蒙らしむる事。

五、基督教徒の學校に於ける神學教授を廢止する事。

六、寺院所有の財産を取上ぐる事。即ち猶太人の手に收むる事で、是は吾々に對する報酬である。

七、家族主義を破壞する事。

八、玉座の守護、愛國心の養成所たる軍隊を廢滅する事。

九、軍隊嫌ひの人民中に軍備反對の念を益々煽動勃興せしむる事。

十、非即太人の爲め、國債及び私債を募集する事を容易ならしむる事。是即ち彼等の爲めに便利なる罠である。

十一、取引所を盛んにする事。是即ち非猶太人を投機に引き入れ、財産を大資本の手に移す手段である。

十二、非猶太人の不動産を破壞し、凡ての土地をイスラエル人の手に移す事の必要。(鶴見の米人石油會社の貯藏所幾十萬坪は名義丈け某日本人で事實上猶太人のものとなつて居る)

十三、手工的職業を大資本の製造工場を以て換ゆる事。

十四、猶太人は貿易及び投機業を確實に掌握せねばならぬ。又農業及び村落經濟を已が掌中に握する事。特に酒精、穀物類、油類、絹の貿易及び投機業を確實に保持する事。

十五、猶太人の爲めに有らゆる官職に就く道を開き、國家の立法者中に加はる事。

十五、猶太人の爲めに有らゆる官職に就く道を開き、國家の立法者中に加はる事。

十六、猶太人に反對する法律を廢滅する事。特に猶太人に利をもたらす法律を制定する事。

十七、猶太人は、古來よりの仇敵たる基督教徒の財產、健康及び生命を已が掌中に握る爲め、醫者及び代言人の職に就く事。

十八、非猶太人中に勞働階級の發達を圖る事。

十九、有らゆる不平、有らゆる革命を援助する事。是即ち我資本を增大し、吾人の目的に接近せしむる。

二十、世界に波動しつゝある社會運動を指導する事。及び猶太保守主義を堅固に維持する事。以上であつて、尙ほ次の事が附加へてある。

右の事を實行したら、他の國民は漸次にイスラエル（猶太人）の奴隷となるであらう。而して、此の世界征伏の目的を達するためにはおのづから貧困者の運命の改善を課程として居る所の社會運動者の味方と詐る事が必要である。

實際に於ては、吾々は輿論の推移の支配及び掌握に努力しなければならぬ、又

猶人は此目的を達するために可能なる程度に於て、勞働階級を保護しなければならぬ。

斯んな風にしてゆけば、吾々は吾々の希望通りに民衆を排發する事が出來る。吾々は革命のために、武器として民衆を使用する。これ等の革命がある毎に吾々の事業（即ち世界征伏）は長足に成功に近づき、我全地上統御の目的は迅速になしとげられる。

以上は今から約七十年程前に全世界猶太人同盟會議の議決によつて、戰爭を用ひないで、全世界を征伏する爲めに建てた猶太人の世界政策であるが、此の事を議決すると忽ち佛蘭西に革命が起り、次にペルシヤ、其次に土耳其、又露西亞に陰謀が起り、其次が世界大戰、其のあふりに乘じて露西亞、獨逸、土耳古、ギリシヤと次々に革命が起り、是れ等の帝王國は算を亂して沒落したのである。是れ悉々猶太人の陰謀であつて、彼等の運動が如何に陰險であり、惡辣であるかと解り、吾等が如何に此の猶太政綱を忠實に實行しつゝあるかに驚くであらう。

獨逸革命政府に列した猶太人

普魯西政府

司法大臣　ローゼンフユルド
同　次官　ハイネマン
大藏大臣　ヒルシユ
文部大臣　ブツシユ

獨逸政府

外　相　ハーゼ
同次官　カウツキー
新聞局長　コーヘン
司法大臣　コーン
同　次官　ヘルツフエルド
大藏大臣　シノフエル
同　次官　ベルンシユタイン
内務大臣　プロエス
同　次官　プロエント

二段構の猶太革命

猶太運動の最後の目的が猶太ダビデ王統の帝王を戴く全世界帝國を建設し、全世界

非猶太人を奴隷とする專制政治を行はんとするにある事は既に述べた通りである。

然して、猶太人等が此の目的を達成するには二つの階段がある。其の第一段の運動としては全世界の帝王を倒して一とまづ彼等の自由になる共和國を作つて置く事にある此の目的を遂ぐる爲めには盛んに民心を煽動して民心を離反させ、又有らゆる巧妙陰險な手段を以て戰爭を勃發させたりして、國家を混亂に陷れ革命に導くのであつて彼等は其の國體を變革して共和國又は勞農共產國家に化せんとするのである、而して革命のドサクサ紛れに其の國の財產を悉く强奪するのが常習であつて、民間富豪などが掠奪の憂き目に遇ふ事は勿論である。

諸君は彼の歐洲大戰を以て强ちに其の罪をカイゼルに被せんとするであらう。併しながら此の戰爭は猶太人等が戰爭勃發の四年前に計畫を樹てたものであつて、中央細亞亞に於ける獨英米の地盤爭ひを利用し、全歐洲を破壞する爲めに仕組んだ猶太人の芝居である。即ち彼等はマソン秘密結社員がプリロ、プリンチップを使嗾して墺國皇儲を暗殺させ、遂に震天動地の世界大戰を捲き起したのであつて、彼等は見事其目的を達し露西亞、獨逸を初め西歐の數ヶ國に革命を起させて或は共和となし、又勞働共

產國となしたのであつて、交戰諸國は此の戰爭に依つて國財を蕩盡して、財政は極度に逼迫したのであるが、彼等猶太人は之れとは正反對に、戰爭と其後に起つた各國の革命に依つて驚くべし二千億圓の黃金を掴んだのである。此の戰爭に依る猶太人の罪惡の主なるものを擧ぐれば、

世界大戰の犧牲者

英	一、〇九八、九一九名	米	一〇七、二八四名
佛	一、四二七、〇〇〇	獨	二、〇五〇、四六六
露	二、七六二、〇六四	墺匈	一、二〇〇、〇〇〇
セルビヤ	七〇七、三四三	伊	五〇七、一六〇
白	二六七、〇〇〇	希	一五、〇〇〇
ルーマニア	一〇一、二二四	ブルガリア	一〇一、二二四
土	三〇〇、〇〇〇		

合計　一〇、八七三、五七七名

負傷者　二〇、〇〇〇、〇〇〇

尙ほ聯合國側の戰費は

英　一〇、〇五四、〇〇〇、〇〇〇磅
佛　八、一二六、六三九、〇〇〇圓
米　五、五一九、五九四、〇〇〇圓
伊　三、五〇二、二〇〇、〇〇〇圓
合計　二七、二〇二、四三三、〇〇〇圓

其他の革命に乘じて猶太人が强奪した財貨を略記すれば、
佛蘭革命に依つて猶太人は全財產が二倍となり、
露西亞の全財產を奪ひ、
獨逸財產の七割五分を奪ひ、
匈牙利革命に依つて、三十億クローネの黃金、寶石、裝飾品を奪ひ、一億九千七百萬クローネを墺國共產黨資金としたのであつて、其他の革命や動亂に如何に彼等が漁夫の利を占めて居るかは推して知るべしである。然かも彼等はすでに我日本國の全財產を評價して二百億圓なりと云ふに至つては、其の惡逆非禮神州國民の斷じて許すべからざる事である。

からざる事である。

見よ、彼等猶太人は斯かる惡辣極まる手段に依つて、機會ある毎に他國の財貨を强奪し現現に於てはすでに全世界の黃金の九割を占め千三百萬猶太人の財產は世界十七億非猶太人の財產の遠く及ばざる所だと謂はれて居る。

猶人とは何人か

現在では、世界地圖の何處を探しても猶太といふ國は見當らない。それは其の筈で西曆紀元前六十三年（今から千九百九十四年前）に、羅馬の勇將ポンペイの爲めに征伏せられて其の屬國となり、西曆紀元百三十五年（千七百九十六年前）に羅馬のハドリアヌス帝の時、彼等の古都エルサレムに居住する事を嚴禁されてからは、全く國土を失つてちらばらになり、歐洲諸國に流浪するやうになつたからであつて、今では歐洲諸國は勿論南北アメリカに渡り、其他世界到る處に猶太人を見ない處はないのであつて、歐洲大戰後は我國にも續々として這つて來るやうになつたのである。

在りし日の猶太國

猶太人は素とセム人種であつて、メソポタミヤ地方に住居して牧畜を業とし、唯一

の上帝エホバ神を拜する凝り固まつた一信教徒である。

所が・其の地方一帶は元來多神教徒の地盤であつた爲めに、絶えず迫害を受けて居たが、時の酋長アブラハムは大に怒り、今から約四千年前、遂に全族を率き連れて、ユーフラート河を渡りパレスタイン地方に移住したのであるが、此の地方民も矢張り多信教徒であつた爲めに融和する事が出來ず、新參の猶太人は此處でも安穩な日がなく、爭は絶えなかつたのである。

其の爭ひの中に段々と時代は移つて、アブラハムからイザークを經てヤコブとなつたが、其の子ヨセフは才能衆に勝れ、遂に埃乃王に見出されて宰相となつた。或る時彼が故國に歸つて見ると、猶太民族は依然として多神教徒の爲めに苦しめられて居るのを見て大に憤慨し、今から約三千四百八十年前に全族を率ひて埃乃に渡り、ニール河口のゴーセンに移住し、凡そ二百年の間は自由に一神教を奉じて平和な生洲を續けた。

其の後埃及王ラムセヌ大王は、猶太人に信教の自由を與へなかつたゝめに、時の酋長モーゼは怒つて遂に全種族を率ひて埃及を脱出し、スエズからアラビヤを經てパレ

スタインの故地に入らうとしたが、其の間際にモーゼは死去した。彼が死前にシナイ山麓に遊牧した頃、エホバ神の神勅なりと稱して、其の全種族に十誡を授けたのである。モーゼの子ヨシユアは父の遺志を繼ぎ大擧してカナン民族を征伏し、漸くパレスタインの故地に歸還したが、國王と稱する者がなくて統一がなくて勢力は振はず、其後ソールが民意に依つて王位に即いた。ソールの子ダビデは稀世の英傑であつて、即位と共にエルサレムを陷れて王城と奠め、政務を整へ大に範圖を廣め、南は埃及と境を接し、北はパレノン山脈に及び、東はユーフラート河に至る廣大な地域を領するに至つた。ダビデの子ソロモンが立つに及んで益々政務に精勵し商業を起し貿易を奬勵して大に國利を計り壯麗なる禮拜堂を建立するなど、所謂猶太の黃金時代を作つたが、今から千八百八十四年前彼の死と共に國は二分し、南半を猶太と稱して都をエルサレムに、一つをイスラエル國と名けてサマリに都を奠めた。其の後は國勢頓に振はずイスライルはアツシリアに亡ぼされ、猶太も其の屬國となつたが、二千五百十七年前にバビロニアに亡ぼされ猶太貴族はユーフラート河畔に移され、其後一旦歸國を許されたが、二千二百六十三年前にマセドニアのアレキサンダー大王に亡ぼされ、大王

の死後はトレミトに屬し、後アッシリアに征服され、其の後一時國を恢復したが前述の如く羅馬の爲めに追はれ、現在は猶太人の名のみが殘つて居る。

モーゼの十誡

此の十誡はモーゼがシナイ山上に於て、猶太の祖神エホバから授けられたと稱せらるゝもので、猶太思想の源泉であつて彼等にとつて最も大切な教訓である。

「我は汝の神エホバなり。汝を埃及の地其の奴隷たる家より導き出せしものなり。汝我の外何物をも神とすべからず。安息日を守りて之を聖潔にすること。汝の神エホバの汝に命せし如くすべし。六日の間働きて汝の一の業を爲すべし。七日目は汝の神エホバの安息日なれば何の業務をもなすべからず。

汝の父と母とを敬へ。汝殺す勿れ。汝盜む勿れ。汝其の隣人に對して虛言する勿れ凡て隣人の物を貪る勿れ。

是等の言をエホバ山に於て火の中雲の中より大なる聲を以て汝等の全會衆に告げ給ひしが、此の外には言ふ事をなさず、之を二枚の石の板に書して我に授け給へり。

タルムードの抜萃

ユダヤ聖書タルムード中の主要なる章句を抜萃したもので、猶太魂の眞髄である。

一、神より生まれたるは唯猶太人のみ、其他の人類は惡魔の子なり。

一、人間は動物より高等なるが如く、猶太人は人間より高等なり。若し此の世に猶太人なかりせば、如何なる幸福も、赫々たる太陽の光線も、風雨もなく、人類は到底生存し能はざるなり。

一、永久に生存する價値あるものは、獨り猶太人のみにして、他の人類は驢馬にも如かず。

一、猶太人は人類と名くる權利あるも、不淨の神より生じたる非猶太人は豚と命名せん。

一、エホバ（上帝）は、非猶太人を憎み給ふ程、驢馬や犬の如きものを憎みたまはず。

一、非猶太人が善事を行ひ、慈善を施さば之を罪と認め彼等を呪ふべし。これ彼等はこらんがために斯かる行ひをなすが故なり。

一、我等は如何なる援助も非猶太人に乞ふべからず。我等の利益のためには、彼等に害を與ふべし。非猶太人は、地上にある幸福を受くる權利なし。何故ならば彼等はたゞ動物なればなり。

動物を放逐し或は殺戮し得る如く、我等は非猶太人を追ひ、之を殺し、又彼等の財物を利用し得るものなり。即ち猶太人ならざる者の所有物は、吾等の紛失したるものにして、實際の所有者は猶太人なるが故に、猶太人は先づ第一に之を所有せざるべからず。

一、非猶太等が、猶太人より些細なる物を盜むとき之を死刑に處するは當前なり。然れども猶太人は、欲するまゝに非猶太等の所有物を奪ふも自由なり。是れ「汝の隣人に惡を施すこと勿れ」とあるも、特に「非猶太人に惡を施す勿れ」と明記しあらざればなり。若し非猶太人にして穴におつるものあるも、之を引き上ぐるに及ばず。其の穴に楷梯あらば之を取除けよ。若し、傍に石あらば、

拾ひてこれを穴に投せよ。

一、非猶太人の財產を管理することは猶太人の權利なり。同じく猶太人は、非猶太人を殺す權利あり。「殺害する勿れ」とは、實は希伯來の子なる猶太人を指すものにして、非猶太人を意味するものに非ず。而して之を行ふには、責任上の危險すくなき時を好しとす。非猶太人を殺害するには、彼等の中最も高等なる者を選ぶべし。

一、非猶太人の生命は我等の掌中に在り。特に彼等の黃金は我等の所有物なり。

一、非猶太人を殺すに當り、基督教中の地位高き者を選ぶべし。

一、非猶太人の血を流す者は、エホバの神にいけにえを捧ぐる者なり。

一、故意に猶太人を殺害せる非猶太人は、恰かも全世界を滅亡せしめたる如き罪あり。これ以上は何にも附け加へて說明する必要はない。何故ならば、有らゆる解釋はタルムード中より引き出したる恐ろしき情景の意味を、唯弱むる許りだからである。

トーラの抜萃

イエルサレムよ起き上れ
光を放つ汝の光諸方に及ばん
無窮の光榮はなんぢの上に留まらん
諸方の國民はなんぢの光に向つて進まん
諸の王もなんぢの光の輝く方に
其時なんぢは雀躍して喜ばん
なんぢの鼓動は高まり心臓は高く打たん
海の富は悉く汝の方に向ひ
諸國の民の金庫は汝の許に集められん
外國の若者は汝の城壁を築き
外國の王等は汝の僕とならん
汝を迫害せし者の子孫は汝の前に屈伏し

汝を輕んぜしものは汝の足下に跪まづかん

以上三つの猶太聖訓は、猶太人が寢ても醒めても忘れずに堅く信奉して居るものであつて、彼等は此の聖訓を一字一句もたがわずに實行にうつして居るのである。猶太人が今日の勢力を得たのは、決して偶然ではない。

亡國流浪の民

西暦百三十五年に故國エルサレムを追放されてから、彼等猶太人等は羅馬、西班牙佛蘭西、英吉利、獨逸、露西亞などの諸國に流浪した。併しながら亡國の民の悲しさは、何處に行つても立ち寄る蔭もなかつた。或時は異教徒として、或時は基督の反逆者として、又亡國の意氣なしとして、又寄生虫として絶えず迫害せられ、侮蔑せられ虐待されて居た。

それでも彼等は其の天稟の商才を發揮して到る處の國に發展して行つたのであるが西暦千五百十六年に十字軍が起るや、幾萬かの猶太人は殺され、或は放追され又は虐待を受け、西班牙の如きは全猶太人を追放し、英吉利は入國を禁止し、露西亞皇帝イ

バン四世の如きは數千の猶太人を河に投じて殺すなど、彼等の歷史は徹頭徹尾壓迫と排斥との連鎖である。

斯くて彼等は自由が欲しかつた。平等に扱つて欲しかつた。階級制度が怨めしかつた。境國が邪魔であつたのである。

猶太一神教と猶太魂

猶太人等の一神教から生まれた猶太魂は、實に嚴然たるものである。四千年來彼等が固く信奉して來たエホバ神に對する信仰の念は絕對的であつて、熱烈極まるものである。

四千年彼等の祖先を通した祖神エホバは現在世界に散在する一千五百萬の猶太人の生命其者であると言つてよい。彼等を生む父母、父母を生んだ祖父母、而して歷代の父祖の家長たる猶太王族の祖エホバを離れて彼等には何の宗教もあり得ない。

毎土曜日、彼等は彼等の猶太教會に在つて祈禱を怠らないのであるが、猶太僧の祈禱と其の說教とは彼等の祖神の靈其者であると言ふべき程に熱烈極まるものであつて

集る全同族は悉く感極まつて歔欷するのが常であるといはれて居る。

斯くて彼等は毎土曜日に猶太魂に磨きをかけて居るのである。國家を失つて八百年住むべき國土は他國から抹殺されても尚且つ彼等猶太人には萬物を燒き盡さずにはやまない底の祖國意識が燃えて居るではないか。

言ふも畏し神洲に三千年の歳經る生命の底根をおろして居ながら、「ダニ」の如き外道に平伏して我等の祖國ソビエットなどゝ血迷つた政治屋や半可通の僞科學者が居て社會を攪亂し、衆人を惑はし祖國を無みする徒輩がある事は慨嘆に堪へないではないか。

猶太國は滅亡して居ない

人の精神力(魂)は肉體を支配する。精神力の發動によつて心の方向が定まり、或は言語となり又は動作となつて現はれる。故に精神力が發動する時動作となり、動作は必然的に何物かを具現する。然して此の理は直ちに民族精神又は國民精神にも當て拈まることが解るであらう。羅馬帝のために國土は奪はれたが猶太人は、決して父祖傳

來の猶太魂までも奪はれなかつた。たとへ四散して各々異つた國に別れ住んでも彼等の民族的精神はエボバの祖神に歸一して、到る處で長老會政治を組織し、到る處に小猶太國を建設したのである。此の小猶太國には各々一人の亡命王があつて部下を支配し、宗教を異にする他の主權の支配を受くる事は絶對に欲しない。然かも此等の小國家間には完全な連絡がとれて居るのであつて、時々萬國シオン(猶太)大會を開いて國策を議するのであつて、初めは三國會議、五國會議などであつたが、最近倫敦に於て開かれたシオン會議の如きは世界中の三十七ヶ國の猶太人代表者が集つたのであるて其の目的たるや、問ふまでもなく全世界猶太人の結合統一と其の世界政策を議するにある。

則ち猶太國は決して滅びて居るのではなくて完全に統一された小猶太國が全世界に亘つて無數に出來たのである。換言すれば猶太人は全世界を猶太國と心得て居る。世界を自國と心得て居るから彼等は住所に執着する事なく、利に向つて世界中を轉々して居るのである。

即ちパレスタインに本籍を有し、各現在の各國は寄留地にすぎないのであつて、恰かも日本人が日本内地で行つて居ると同じ事を世界的にやつて居るまでの事である。

かも日本人が日本內地で行つて居ると同じ事を世界的にやつて居るまでの事である。而して吾人が日本國內の寄留地で其の地方の長官となり、市町村長となると同様に、彼等は各國の大統領になり、大臣となり、議員となり、貴族となり、富豪となり外交官となつて大猶太國の國利民福を謀つて居るのである。

西暦千八百六十年巴里に於て開かれた全世界猶太人會議の席上で、當時佛國の大臣であつたモンテ・フィレオの演説にみても猶太人魂が何處にあるかゞ窺はれる。即ち「吾等は何事よりも先きに猶太人であり、且つ猶太人として存在する事を欲するものであつて、猶太人の國粹の精華は一に猶太人の父の宗教である、即ち吾人は如何なる政權も認むる事は出來ない」

と云つて居る。然かも彼等は各其の寄屬して居る國々で或は大統領となり、大臣となり、外交官となり、議員となり、一方に於ては貴族として大資本家として當該國家の指導的立場に立つて、來るべき總決算の日、即ち全世界猶太國建設の日を待つて居るのである。

彼等はすでに「我等の目的達成の日は眼前に迫つた」と言つて居るではないか。

世界知名の猶太人

「英」元首相ビーコンスフイールト卿（ベンヂヤーミン・ヂスレリー）第二次勞働黨内閣藏相スノーデン同外相ヘンダーソン、前勞相モンド、アスキスーロイドヂョーヂ兩内閣の後見役又印度總督レヂング卿。支那政治顧問シンプソン。

「佛」大統領ミルラン、前首相兼陸相ハンルベ、藏相クロック

「獨」大統領エーベルト、カイゼル退位要求者（共和獨逸中心人物）シヤイデマン、外相ラチユーナー元駐日大使ゾルフ。

「墺」世界大戰の導火線となつた外相エーレンタール、同國革命首領ベラ・クン

「露」トロツキー、ケレンスキー、レーニン、元第三インタナショナル議長ジユノヴイエフヨツソエ。

「伊」前外相ソンニノ、シヤンツエル、世界大戰當時米國大統領ウイルソンの相談役バラヂ。

「米」ワシントン、エヂソン、チヤツプリン、「アインシユタイン」

猶太運動の虎の卷

シオン（猶太）の議定書は猶太運動の虎の卷ともいふべきものであつて、世界革命の實行方法に關する決議錄中から主要なものを抄錄したものであつて、彼等の手段が如

實行方法に關する決議錄中から主要なものを抄錄したものであつて、彼等の手段が如何に毒々しいものであるかに驚くでせう。

一、「權力は力に在り」人間は善良な本性を有する者よりは、不良な本性を有つて居る者が多いから、政治上良好な結果を得るには强制と排除とを用ひなければならない。即ち暴力を以てするより外はない。又自分の幸福を得るために、他人の幸福を犧牲にするのは當然である。

二、「自由は理想なり」自由は理想的のものであつて、實際的のものではない。人間が自由を欲求するのを利用し、理想的の欺瞞を用ひて民衆を自黨に引き入れよ。

三、「自由主義の利用」國民が自由主義にかぶれたら、其國は自由主義の爲めに勢力を減退する。吾等は之を巧みに利用しなければならぬ。

四、「資力の專制」國家が持病の癪で悶絶しやうが、外敵や内亂に乘じて國家を其の掌中に入れやうが、結局滅亡は滅亡であつて、そうなれば其の國家は我が權力に歸したものである。そこで全然吾等の掌中に在る資力の專制は國家に藁をさしのべる。國家は已むをずそれにつかまる。若しつかまらなければ、直ちに滅亡して

しまふ。

五、「政治と道德」政治は道德と何等の共通點はない。故に道德で行政をする爲政者は政治家でない。苟も政治を行ふならうとならば狡智と虛飾とを弄せねばならぬ公明正大なる政治は非猶太諸國の特質であるが、吾等は斷じて之に指をふれてはならぬ。

六、「マッソン猶太權力の無敵」有らゆる政權が動搖して居る現代に於て、我が政權は最も優越無敵なものである。何となれば、如何なる奸策と雖も之を侵蝕することが出來ない程鞏固なものになるまでは、人目に匿してあるからである。

七、「目的は手段を辯明する」吾人が今必要上行つて居る罪惡は確乎たる善政を生む我が計劃に於ては善良とか道義的といふよりも必要と利益と云ふ事に意を用ひねばならぬ。

八、「群集は盲目」群集の能力は無智盲昧であつて、善惡理非の判斷力なく、人が右といへば右、左といへば左に其の言ふがまゝになると云ふ呼吸を飮み込まなければならぬ。

九、「アルコール」見よ酒で薄馬鹿になつて居る酒精浸りの動物を、我々及び我黨の

九、「アルコール」見よ酒で薄馬鹿になつて居る酒精浸りの動物を、我々及び我黨のものには之れを許してはならぬ。

十、「古典主義と淫蕩」非猶太人は酒精飲で白痴にされ、其の青年は古典主義及び早熟の淫蕩から馬鹿になる。是は我間牒が或は番頭となり、或は富豪の邸宅に家僕又は男女の家庭教師となつて這入り込み、青年を煽動して居るのである。又非猶太人の享樂場には、猶太女性が出入してゐるが、其他の社交界の青年も、此の種の我猶太女性があつて、故意に贅澤や淫蕩を助長して居る。

十一、「マッソン猶太政府の制度と原則」吾暗號は力と僞善とである。壓制は原則である。狡智僞善は或新勢力の謀反者の脚下に自巳の冠を置くことを欲しないところの國々を征服する方式である。故に吾人は目的の爲めに必要なる時は、買收、瞞著、背信を行ふに躊躇してはならぬ。又政策上吾々が他を屈伏し、政權を得るに必要ならば、勇敢に他人の所有物を奪取し得ねばならぬ。

十二、「恐怖」平和手段の征服方法を以て進みつゝある我國家は、戰爭といふ恐ろしいものに代ゆるに目立たない、而かも適切なる刑罰を以てする權利を持つて居る

此の刑罰に依つて人々を盲從狀態におくところの恐怖を維持する必要がある。吾人が强迫と僞善とのプログラムを保持せねばならぬのは、單に利益の爲めばかりでなく、義務の爲めであり、勝利の爲めである。

十三、「自由平等四海兄弟」 自由平等四海兄弟を叫んだのは、吾々が最初である。それ以來此の言葉は世界到る處から此の誘惑に向つて飛んで來た所のオームによつて常に繰り返された。然し天然には平等なく、天然それ自身が智能、性質、才能の不平等などを成立して居るが、彼等は此の天然の法則に服從すべきことを知らない。

十四、「王統政治」 王統政治は此の天然の原則を以て創造されたが、吾々が自由平等を煽動した爲めに、日を經るに從つて政務の眞の狀態たる王統繼承の意味が失はれ、我が事業の進涉に都合よくなつた。

十五、「非猶太人貴族の特權撲滅」 自由、平等、四海兄弟主義は 吾人に對する唯一の防衛たるによつて、非猶太人貴族の撲滅を可能ならしめた。而して吾人は自然的世襲の貴族の廢墟に我黨の金力ある知識的貴族を頭首に据ゑた。

十六、「經濟戰は猶太勝利の基本」

十六、「經濟戰は猶太勝利の根本」戰爭が領土的利益を出來るだけ與へないやうにすることが、吾人に必要である。これが爲めには戰爭を經濟的地盤に移すのである

十七、「科學の破壞力」吾人が科學として彼等に皷吹した所のものをして、彼等のために大なる役割を演ぜしめねばならぬ。此の目的を以て吾々は印刷物を利用して絕えず科學に對する盲目的信念を皷吹せねばならぬ。吾人の仕組んだダルウィニズム、マルキシズム、ニッシエイズムの成功に注目せよ。是等の主義の非猶太人に及ぼす破壞的價値は極めて明瞭である。（佛革）

十八、「出版物の任務」出版物の任務は、恰かも人民の切なる要求があるかのやうに書き立て、又人民の叫ぶ訴或は不平を製造し、之れを發表する。言論の自由の勝利は印刷物に依つて肉付けられるのである。吾々自身は蔭にあつて印刷物を經て勢力を贏ち得た。印刷物の御蔭で黃金を自已の手に集めた。

十九、「猶太犧牲の價值」吾人は多數の猶太國民を犧牲にし、又それを償ひ得た。味方一人の犧牲は神前に於ける一千人の非猶太人の犧牲に值する。

二十、「標象の蛇」吾人の目的はすでに吾人を去る數步の所にある。餘す所僅かであ

る。吾人によつて貫通された道は我國民の標象たる「蛇」の輪の頭尾を接合せんとして居る。此の輪が連接するとき、各國は恰かも强いたがで締められたやうになるのである。

廿一、「政權爭奪」吾人は野心家を煽動して權勢を濫用させ、政權を凡ての野心家の目標とした。吾人は議場を暴動を演ずる競技場とした。尙ほまもなく紛亂や破産が到る處に出現するであらう。

廿二、「生活難」吾人は非猶太國民を生活難に陷れ、農奴制度よりも以上に人民を苦役に結びつけた。

廿三、「共和制」共和制の權利は貧民にとつては痛々しい皮肉である。なぜならば、殆んど每日の勞働は彼等貧民に此の權利を利用する閑を與へないばかりでなく、却つて傭主や同僚の同盟能工に左右せられて恒久不斷の賃銀を奪はれて居る。

廿四、「マッソン猶太軍」我社會マッソン主義の主張する社會人道連帶の同胞により吾人が常に援助を與へて居る我軍隊即ち社會主義、無政府主義或は虛無主義に入ることを勞働者に勸める際には、我々は恰かも此の壓迫に對する勞働者の救濟

主の如くであらう。

主の如くであらう。

廿五、「非猶太人の敗頽」　權利に依つて勞働者の勞力を利用して居る貴族は勞働者が滿服であり、健康であり、頑丈であることを望んで居る。吾々は之と反對に非猶太人の敗頽をよろこぶものである。我が權力は勞働者の營養不良及び衰弱に存するのだ。なぜならば、之に因つて彼等は我々の思ひ通りになり、之に反抗する氣かも自己の權力中に見出すことが出來ないからである。

廿六、「群集と全世界王の戴冠」吾々は生活難と、之に因つて生ずる嫉妬と憎しみの念に依つて群集を煽動し、其の手に因つて吾人の道を遮る者を平定する。我が全世界領主が戴冠せんとする曉に於て、之に障碍となるものは、やはり同一の手で之を排除する。

廿七、「一般經濟の危機」　全然我が掌中にある黃金の援けと、吾々の爲め容易で且つ隱密な有らゆる方法を以て一般經濟的危機を造りあげ、次に各國に於ける全勞働者を同時に街衢に抛り出すことにする。さうすると此等の群集は幼時より嫉んで居た者共の血を流がそうと狂喜して馳せ集まり、人々の財產を掠奪することになる

廿八、「マッソン團と佛國大革命」 想起せよ。吾人が大革命と命名した佛蘭西大革命を、此の革命の秘密は吾人には明瞭である。なぜならば全革命は吾人の手になつたからである。

廿九、「王即ちシオン血統の專制君主」 佛蘭西革命以來吾々は世界の爲めに吾人が準備しおいたシオン統の專政君主でなければ其の王たることを人民が拒絕するやうに、人民を次第に迷から醒すやうに指導して居る。

三十、「自由」 自由は人間社會を驅つて有らゆる力、有らゆる權力、果ては神權や自然力に對してさへ抗爭せしむるものである。故に吾人が君臨した曉には「變じて血を好む猛獸となる」と云ふ動物力の原則に照らして、此言葉を人間の辭言から抹殺しなければならぬ。（革命成立の曉には人間から全然自由を奪ふ） 若しも信仰の自由を人間に與へた人間は神の攝理に從ひ檀家總代や牧師の指導に從ふ事になるから、吾人は宗敎を根底から覆し、非猶太人の頭から神及び精神なる原則を拔き取り、全然打算的で且つ物質的慾求を以て代へねばならぬ。（反宗敎運動）

卅一、「マッソン的政權掌握の方法」 各國民が帝王を見ること恰かも神意の淸淨なる現象の如くであつた時代には、不平を言はずに帝王の獨裁に服從して居たが、吾

現象の如くであつた時代には、不平を言はずに帝王の獨裁に服從して居たが、吾人が各國民に個人の權利なる觀念を注入して以來は、各國民は帝王を單なる人間と思ふやうになり、神僎の塗油は人民の目前に於て王の頭上から落ちた。そして吾人が人民から敬神の念を奪ひ去つた時には、其の權勢は共產の巷に投げ出され吾々に占領されてしまつた。（歐洲の帝王國皆然り）

卅二、「猶太人の神選」「諸王は吾を經て王たるべし」と而して吾々は全世界王たるべく神自身に選はれたものである。

卅三、「最高政府行政廳」　自由行動より生ずる努力は他の自由に遭遇して其力を衰退し、此處から重大な精神的打擊、失望及び失敗が起る。此の方法を以て非猶太人を疲勞困憊させ、世界の有らゆる國家的勢力を完全に手に收め、そして最高政府を創設し得る國際的主權を吾人に提供する餘儀なきに至らしめる。そして現在の爲政者の代りに最高政府行政廳と名づくる怪物を据付ける。其の手は各國民を統制せずんば止まない程の尨大な組織を持つて居つて、だにのやうに四方へ八方に延ばさるゝのであらう。

卅四、「非猶太人土地沒收」　非猶太人貴族は政治的勢力としては何等顧慮する必要がないが、地主としての彼は吾人に有害である。それは自己の生活資源に於て獨立し得るからである。それで吾人は何うでも斯ふでも土地沒收をやらねばならぬ。

卅五、「奢侈」　吾人は非猶太人の工業を崩壞するため、吾人が非猶太人に擴めた贅澤は對る非常な慾求、即ち飽く所なき奢侈を投機の補助として流行させやう。

卅六、「投機」　吾人は投機に依つて土地から人手も資本も吸收し、全世界の金が吾人の手に移るやうにし、それで非猶太人を勞働者の仲間に投げ込むやうにせねばならぬ。かうなれば非猶太人は唯々生きたい爲めに吾々の前に膝を屈するやうになる。

卅七、「無政府主義と泥醉」　吾人は勞働者を無政府主義と飲酒とに馴致し、之と共に地上から非猶太人智識階級の有らゆる勢力を驅逐する手段を講じ、以て巧妙深刻に產業の根抵を顚覆しやう。

卅八、「國民敎育改變に對するマッソン主義の適用」　吾人の主義を適用するに當つては、諸君が活動して居る國の國民性に注意せよ。國家敎育を自分の思ふやうに改

變せずして、一般的に主義を適用しやうとしても成功は覺束ない。然しながら主義應用に注意して進めば、十年足らずして最も頑固な性質も變化するものであることを、諸君は見るであらう。その時既に新國民は我々に征服されたのである。

卅九、「僞學理」　吾々は吾人には解り切つて居る虚僞の學理や主義（マルクス、ニイチエ、ダーウイン等）を非猶太青年に宣傳教育し、之を馬鹿にし引き廻し墮落させた。

四十、「自由主義の害毒」　吾々が自由といふ毒藥を國家機關に注入した結果、その全政體に變化を來し、各國は死病即ち壞血病に冒され、今や斷末魔の苦悶を待つばかりである。

四一、「大統領はマッソンの愛人」　大統領は群集中から又は吾人の傀儡或は吾人の奴隷の中から捉へて來たものである、抑も之が非猶太人否全非猶太人民の足下に仕掛けた地雷火の基である。

四二、「全世界王宣言の時機」　我が獨裁政治の承認といふことは、憲法廢止以前に到來するかも知れぬ。爲政者の不規律、其の支拂不能及び吾人の煽動で苦しめられ

た人民は叫び出す「彼等を排除し吾々を一致させ、紛糾の原因たる民族、宗教の差別、國家打算を廢し、吾々に平和ゝ安寧とを與ふる一人の世界王を與へよ、吾々は我が爲政者及び代議士と一緒では平和も安寧も見出すことが出來ない」と、其の時が我が獨裁政治承認の時機が到來したのである。

四三、「病毒の傳播とマッソンの罠」　吾々の世界王を承認させるには、絶えず各國に於ける人民と政府との關係を紛糾させる必要がある。是が爲めには不和、敵愾心爭鬪憎惡、果ては困苦饑餓、病毒傳播、生活難を以て疲勞困憊せしめ、非猶太人が吾人の金力を有する完全なる主權に走り寄る外に途を見出さぬやうにせねばならぬ。若し吾人が人民に休息を與ふるならば希望の時機は到來せぬであらう。

四四、「歡樂と民衆倶樂部」　吾々は彼等が何か考へないやうに享樂や、遊戯や娯樂や性慾や民衆倶樂部などを設けて彼等を牽制する。又新聞雜誌に依つて各種各樣の運動、藝術の競技を提議する。即ち此等の趣味は吾々が彼等と戰はねばならぬ諸問題から人心を徹底的に牽制する。そうすれば、人々は次第に獨立の思索から離れ吾人と共鳴する、なぜならば思想の新傾向を提出するのは吾人ばかりであるか

らである。而して之れを提出するには、吾々の仲間のやうに見へない人々を經てやるのである。

四五、「同日に起る世界革命」　到る處同日に起すべく準備せられたる各國家革命に依つて吾人が全天下を掌握した曉に於て、吾人に向つて謀反する者の無いやうに努力せねばならない。

四六、「有らゆる秘密結社を指導するマッソン」　若しも此の世界が洄澤するならば、それは世界の頗る大なる團結を破壞するために之を洄濁せしむる必要が吾人にあつたからである。若しも世界に謀叛が起つたならば、その主謀者は我が忠僕中の一人に外ならない。從つてマッソンの活動を指導するものは吾々以外にはならないといふ事は自然な事である。

四七、「資本の澁滯」　經濟的危機は吾人が非猶太人の爲めに作つたもので、金融界から貨幣を取り上げたに外ならない。各國から貨幣を取上げた爲めに巨額の資金が停滯し、國債を吾人に仰ぐの餘儀なきに至つた。此等國債は利拂で各國の財政を困難ならしめ、且つ元金で各國を奴隷たらしむるに至つた。

四八、「ダウイド王根を牢固たらしめよ」　吾人はダウイド王統の根を地球の最下層迄も扶殖する方法を講じやう。此の扶殖法は第一番に我が聖賢が、今日迄一切の世界的事件と全人類の思想養成とを指導し來つた隱然たる力の中に存するのである。

四九、「眞の自由」　自由は放縱や我儘の權利ではない。同じく人間の力と價値とは吾人が良心の自由や平等の如き破壞主義を主張する權利ではない。又個人の自由は無秩序な群集中に駄辯を弄して自他を惑亂する權利では決してない。眞の自由は社會生活の諸法則を忠實に正當に守る個人の神聖に存する。又人間の尊ぶべきところは自分即ち「巳」といふことを空想するにあるのではなく、自巳の權利の自覺と共に無權利の自覺に存する。

五十、「人間の全幸福」　人間の全幸福は秩序の中に存するのである。

猶太人の二大宣傳機關

猶太人は世界を其の掌中に丸めるために、すでに二つの大きな武器を持つて居る。

一つは黃金の力であつて他は宣傳機關である。即ち彼等が世界を動かす力は金力と宣傳とによるべきものとし居るのであるが、彼等の此の着眼は見事に的中した。

即ち彼等の宣傳機關は欺瞞、煽動、輿論の掌握に依つて思想を破壞し、爭亂を醸成し、國際的紛擾を惹起する等、有らゆる方面に運用してすでに百パーセントの効果をあげて居る。

猶太人は言ふ「若しも黃金が世界第一の力であるならば、出版物は第二の力である。吾人は何物よりも先に、出版界の權能を猶太人の掌中に收めねばならぬ。世界の貿易及び資本其他の物を全部猶太人の手に取上げるにも、世界の出版物を吾人の掌中に收めない間は、是等の努力は全く徒勞に歸する。

出版物を我等の手に收めた時、初めて吾々の目的を達成する事が出來る。又巷間の文藝や芝居、又は輿論を作る爲めには大政治新聞が必要である。吾々が出版物を掌中に收めさへすれば、不正當なものを正當とし、不名譽なことを名譽とする事が出來ると。

是を見ても、猶太人が如何に出版物に力瘤を入れ、是に依つて彼等が如何に世の中

を瞞着しつゝあるかゞ窺はれる。見よ佛蘭西大革命の種は百科全書であつたのである。而して彼等はすでに世界中の大新聞や雜誌其他の出版物の九割を手に收めて居る。斯くて彼等は掌手に採むが如くに世界の輿論を作り社會を混亂し、過激思想や淫蕩文學などを撒き散らして非猶太民族精神を破壞し、靑年男女の氣魄を奪ひ、節操を紊る事が如何に大であるかを思はしめる。

活動寫眞が如何に民心を指導するかは誰しも知る所である。而して猶太人國民の國民權を抹殺するために努力して居る事は非常なものである。是れに就るてに「シオンの議定書」にもある通り、享樂や遊戯や娯樂や性慾や民衆倶樂部（活動寫、ダンスホール演劇場等）に依つて非猶太國民が、國家に關し又家庭や社會に就いての眞面目な注意を此の種の方面に誘惑して、純良なる國家、社會、家庭を破壞しやうといふのであるが、其の破壞力の最も大なるものは活動寫眞であつて、其の感化力は學校敎育を遙かに凌駕するといはれて居る。

現在我國に於ける活動寫眞の流行は非常なものであつて、大都會は勿論全國到る處の町といふ町で活動寫眞館を見受けない所はない位である。

面して、所謂何々館封切り、何々嬢力演超作等と誇張した宣傳をして猛烈に觀客をつり、淫蕩極まりなき醜態や、肉感的挑發的な場面又は喜劇や滑稽劇などを憶面もなくさらけ出して、青年男女の魂を奪つて居るのであるが、是れが思想上又風敎上に及ぼす影響は實に恐るべきものであつて、活動寫眞に魂を奪はれた少年少女が、知らず識らず其の惡感化を受けて墮落し又は罪を犯す者が、實に莫大な數に上つて居る。

然かも、日本に輸入さるゝ映畫の大部分は猶太人の經營に係るものであつて、紐育やロザンゼルスの十大會社は勿論其の下の小會社も殆んど全部が猶太人の經營又は其の勢力下にあるものであつて、全映畫の九割を占め、獨逸品も約八割五分が彼等の掌中に在る。

而して、活動寫眞といへば、老若男女を問はず非常に好むのであつて、甚だしきは飲食を節しても一週に一度や月に二三度位見なければ納まらないといつた有様であつて、彼等猶太人を之れに依つて狂人となし思想を破壞すると同時に、全世界から此の零細な金までも吸收しつゝあるのである。

秘密結社

フリーメーソン
一名 マッソン

フリーメーソン又はマッソンといへば、人道、平和、自由、平等、博愛、四海兄弟主義などを表看板とする一つの秘密結社であつて、其の起原は遠く十四世紀頃だといはれて居る。もとは宮殿、寺院城塞などの大建に從事する大工、左官、石工などの頭棟株の組合であつたのであるが、其の商賣柄として諸國の王侯貴族など﹅接近する機會が多く、又是れ等の人から大變に大事にされ、殆んど絶對の自由を與へられて來たことから、次第に勢力を得、其のうちに僧侶とか、神學者などが參加を許すやうになつて、何時の間にか政治的秘密結社の性質を帶びて來たのであつて、現在では遂に世界覆波の陰謀團と化してしまつたのである。

マッソンの本家本元は英吉利であつて、十八世紀の初めに四つの組が合同して一大組合となり、一人の大棟梁を立て、學者とか神學者などの援助を得て組合の儀式を定め、從來の憲法を改造して精神的結社となつたものである。

而して、此の種の組合員は歐洲諸國を仕事を求めつ﹅遍歴して居た爲めに各國に此

の組合が出來たのであつて、佛蘭西ではすでに十三世紀の半に巳にあつた事が記錄に殘つて居る。其他獨、墺、波、露、西其他の諸國にも出來て居て、十八世紀の頃には全歐洲に亘つて、非常な跋扈を來し、大に國政を攪亂した爲めに、各國では極力之れに彈壓を加へたが、其の結果却つて潛行的に發展し、現在では、全世界に此の結社を見ない所はなく、政治、外交、言論其他諸の事に繋がつて暗躍を試み、或は革命を助け、擾亂を煽動し全世をひつかきまわしては搔動を起させて居る。

今日の世界は、國內的にも、國際的にも此のマッソンの影武者が命令し干涉して居るのであつて事變、爭鬪や革命の背後には必らず此のマッソン結社員が糸を引いて居るのである。

マッソンが今日の勢力を逞ふするに至るまでには、其の上層級は佛蘭盟に於て創始せられ、其の精神的養成は獨逸で行はれたのであるが、現在に於けるマッソンの思想は猶太主義に據るものである。

併しながら、其の初期に於ては猶太人は入社を許されなかつたが、一七八〇年頃佛國のフランクフルトに猶太人マッソンが出來、十八世紀の初め頃になると全歐洲に亘

つて、猶太人なきマッソンなしといはれる程になり、十八世紀の終り頃になつて何牙利では猶太人は其の指導的地位を占むるやうになつたのである。然して十九世紀の初めにらると「マッソン社員は人爲的猶太人だ」といはれるやうになつて仕舞つたのである。

マッソン員となつた猶太人等は極力鞏固な地盤を作る事に努めて事たのであつて、現在では猶太人は孰れも各國マッソン結社の牛耳をとるに至つたのであつて、之れに反抗的態度に出る者は其の社會的地位を失ひ、經濟的大打擊を負はせられ、甚だしきに至つては生命に危害を加へられる事もある。

猶太人の言ふ所では、マッソンの思想は猶太國黃金時の王であつたソロモン王から出て居るのであつて、王はマッソンの創始者と稱して居る。現在のマッソンの中心たる勢力が猶太人にある事は此の一事でわかるのであつて、彼等はマッソンによる世界共和國建設のために狂奔して居るのである。斯くして彼等は先づ世界各國を共和國となし、最後にソロモン王統の直系を大統領とする全世界大猶太共和國の建設をはかつて居るのであつて、全世界の帝國打倒のために、有らゆる手段を以て革命を助けて居

るのである。

世界に於けるマツソン結社及び人員

	結社數	人員
英	三、一五五	四十萬人
佛	四七〇	三萬三千人
獨	五五九	五萬八千人
米	一〇〇	二百萬人
全世界	二四七八八	二百三十五萬八千四百人

右の外、和蘭、白耳義、丁抹、瑞典、葡萄牙、西班牙、波蘭、露西亞、支那、日本などにもあつて、世界到る處に於て勢力擴張に努め、諸國の有力者を結社に引き入れつゝある。

古今の著名なるマツソン結社員

米國、ワシントン、マツキンレー、タフト、ルーズベルト、ランシング、

歐洲、ハウス大佐、パーシング將軍、勞働組合主領コンパース・ボルテルール、ナポレオン、ポアンカレー、フランクリン、マッチエソンニノ、ダヌンチオ、エドワード七世。

支那、孫逸仙

マッソン秘密結社員と世界の革命

米國の獨立（西暦一七七六年）……ヂヨウヂ・ワシントン　トーマス・ジエフアーソン
ラフアエット

佛蘭西革命（西暦一七八九年）……ダントン、ロベスヒエール　ウオルテール、モンテスキユー
コンドルセー、ヘルウエチノース　ダレムベルト、デイデロー

同國二月革命（西暦一八四八年）……クレミエ

土耳古革命
西暦一八〇八年）……セリム二世（を弑す）
（西暦一八〇九年）……ムスタフア四世（を弑す）
アブヅルアヂツ（廢位）
（西暦一八七六年）……ムラツド五世（追放）　（青年土耳古黨）
（西暦一九〇九年）……アブヅルハミツド王（廢位）……カテツソ

伊太利（西暦一八三一年）……ヨセーフ一世（爆殺未遂）……マツチニ
（西暦一八五八年）……フエルデナンド二世（未遂）
カール・アルベルト王（未遂）

葡萄牙（西暦一九〇七年）……（王殺・皇太子殺）后の勞働大臣リマ
（西暦一九一〇年）……マヌエル王（追放）

露西亞
（西暦　年）……パウル一世（弑）
（西暦一八二五年）……アレクサンドル一世
（西暦一八八一年）……アレクサンドル二世……イエツセ・ヘルフマン（女猶）
（西暦一九一七年）……ニコライ二世 追放……（后殺）
（西暦一九一一年）……ストリピリン首相……ヂミトリ・モーテル（猶）
トウレポフ衛戍司令官……ウエラ・サスリッチ（女猶）
スチーチヤーギン内相……ポゴレロフ 猶）

瑞典（西暦一七九二年）……グスタフ三世（殺）……ヂエールマンランド大公（マツソン）

バイエルン（西暦　年）……クルト・アイスネル外十名

ブラジル（西暦　年）……ペドロ二世（退位）……テオドロ・ダフォンセカ

墺國 皇儲フランツ フエルデナンド（暗殺）（西暦一九一四年）……ガブリロ、プリンチップ……セルビヤマツソン員）
爆彈交附者 タンコシツ少佐（マツソン員）（國民軍指揮者）
拳銃交附者 チガトウヰチ

天資英邁なるフエルデナンド大公が將來獨帝カイゼルと握手する事を恐れた爲め、一九一二年に計畫された。

世界大戰……露國革命……獨逸革命

伊藤公狙擊事件……マッソン社員が日露の提携を防害する爲め朝鮮安重根を使嗾して狙擊させた

西班牙革命……（西歷一九三一年）

フリーメーソンの目的

（一名マッソン）

猶太國のソロモン王統を中心とする無神論的の世界共和國の建設。

西曆千九百年八月、巴里に於て開かれた萬國マッソン大會の席上に於て、其の最高幹部の一人たるカルチエ・ラ・タントウはマッソン即ちフリーメーソン結社の目的を述べて次の如く言つた。

「仝世界マッソンの力を合一せしむるため世界を紛亂に陷れ、最後に無神論的世界共和國を建設するに在りと述べて居る。

而してマッソンの憲法に依ると、マッソン結社員は、此の目的を達するために、謀叛及び革命を煽動する權利を有するのであつて、又一面に於て、謀叛は一つの神聖

なる義務となつて居るのである。

現に英國に於ける第三十階級の組台は全組中で最も重要な階級であるが、この階級を與へる儀式の中には、法王又は帝冠を劍を以て突き刺す儀式がある。この一事を見ても、此の秘密結社の目的が何であるかは想像するに難くない。

しかも、彼等が表面的に標榜する所ば四海兄弟主義であつて、職業、黨派、國籍、宗敎を超越し、自由正義の士を以て連ぬる一つの秘密結社であると稱し、其の標語とするものは、自由、平等、博愛を以てして居る。

然して、結社員等は此のまことしやかな餌を以て盛んに結社員の增加に努力して居るのであつて、すでに世界殊に歐米の有力な活動的人物を網羅し、極力此の最後の目的達成を急いで居るのであつて、今や其の結社は歐米各國は勿論、東洋に於ても支那に及び、我日本にも高層の有力者中に其の社員となつて居る者があると言はれて居る

而して、此の好餌に釣られて一度入社すれば、結社員は結社の憲法に對して、善良にして最も忠實でなくてはならないのであつて、其の第一の義務されて居る「服從」を誓ひられ時事問題に關する一切の行動に對しては、悉く嚴格なる結社の制肘を受け

るのであつて、革命に成功した者は、名譽ある英雄として尊敬し、革命に失敗した者は殉教者として保護するのである。

斯くて彼等は有らん限りの秘術を盡して、有らゆる方面に亘つて社會を攪亂し、革命を煽動し、陰謀を助け居るのである。

然して世界各國に於て最も活動して居るのはユダヤ人結社員であつて、自然彼等は最高最大の勢力を有し、結社にユダヤ精神を吹き込み、且つ結社をユダヤ人個有の目的遂行の手段となす道として居る。

マツソンと重大國際問題

現下の滿洲事變が勃發して以來、日本國民として最も憤慨にたへないのは、暴慢不遜な支那よりも、國際聯盟理事國の態度である。

支那人を人間並に取扱ふ事は、寧ろ大人氣ない事である。併しながら、世界六十餘國の上層に立つ十二ケ國の代表者が、高壓的に正義の日本を抑へつけやうとした事に就ては、日本國民として實に憤慨にたへないのであるが又それと同時に、如何にも

不可解な事であらう。

併しながら、世界にマッソン秘密結社が存在する事を知り、南京政府の正體を識る者にとつては、寧ろ當然に起つた事だといふ事になる。

西暦千九百〇年八月三十一日、巴里に開かれた萬國マッソン會議の席上で、匈牙利マッソンの有力者ヘペジーは次のやうに主張して居る。

「世界マッソン同盟に依つて世界を動かすが如き重大問題大問題に對しては、全世界のマッソンは合一せる偉大なる努力を以て、マッソン的意義即ち共和政體に有利なるが如く時事問題を解決すべし」と。

然して、南京政府の創立者孫逸仙はマッソッンの有力なる社員であつた。其の末流たる南京政府が、どんなものかは推して知るべしであつて、しかも南京政府顧問英人ライヒマン及び本年五月新たに同政府顧問となつた英人リーデグンは、共にマッソンの有力者であり、國際聯盟事務總長ドラモンド亦然り、聯盟理事者ブリアンが其の傀儡である事は問ふまでもないのであつて日本がまゝ子いびりをされるのは何の不思議もない。

然かも事變勃發と同時に南京政府から派遣された二十七名の宣傳員は、支那代表と呼應して歐米各國マッソン結社員を動かして居る事は言ふまでもない。それよりも滿洲に於て日支間に三百餘件の問題を積みあげて、今日の事態を捲き起させたバチルスが何であつたかゞわかるではないか。

非猶太人マッソン結社員の末路

眼に見へ、香として嗅がせられるマッソンの餌（目的）は、誰しも取つて喰ひ度い程立派なものである。併しながら、非猶太國民がパックリといかうものなら、其の瞬間から國賊と化し、死の宣告を與へられたも同然であつて、其の裡にかくされて居る强剛な鈎は其の人間の腸の底まで喰ひ入つて、結局生命を奪はずには置かないのである。

成る程革命に成功した者は、一時は名譽ある勇者として尊敬されることになつて居る。併しながら、シオンの議定書には何と書いてあるか。

「吾々（猶太人）が天下を掌握した曉に於て、我即位（猶太王）に武器を手にして反抗する者は、凡て慘酷に處刑する。新らしく秘密結社を設くる者には、同じく死刑に處

する。

そして現在吾々の爲めに働いて居るもの又は嘗て勤務したものを廢止し、之を歐洲から遠き大陸（南極か北極か）に流刑にする。又我等の秘密を知つて居る非猶太人のマッソン結社員に對しても同樣である。特に殘して置く者は常に流刑を以て威赫して置く。」

見よ、手を下して慘殺しない者は悉く南極か北極かに流刑に處せられるのであつて結局は死滅するより外に路はないのである。猶太人が如何に陰險惡辣であるかは之れに見てもわかる。

哈爾賓舊露勞働團の檄文

猶太人の甘言に釣られ、彼等の煽動に乘り、共產國家の樂園を夢みつゝ革命運動に參加した舊露國人は、革命成立後忽ち嘗めさせられた深刻な現滅の悲哀……豚（猶太人は非猶太人を豚と言つて居る）として一律に苛酷な勞働を課せられ、生ながら地獄の責苦にあつて居る。次に掲ぐるは在哈爾賓露國勞働團の檄文である。日本に於ける

現在の左傾勞働團の檄文と並べて見たら彼等はどんな顔をするか。

舊露國勞働者諸君

諸君は何時まで猶太人の束縛を受けんとするか、今や諸君の覺醒すべき時が來た吾人は革命に際し猶太に依つて凡てが破壞され汚辱された事を自覺せねばならぬ。同胞よ忍耐は最早無用なり。吾人は吾人を外國人の手に委めぬ要はない。故に彼等を悉く汚れたる箒を以て惡魔の下に追放せざるべからず。何んとなれば猶太人は理想の民に非ず、政治を全然自己の職業に轉じ道議も名譽も顧みず、唯不義利權と金錢とを貪ぼるのみだからである。

見よ彼等は絶えず我等に向つて煽動に注意せよと絶叫して居ふ。而して彼等の煽動は忠實なる我國民を指したものであつたではないか。

露國勞働者よ須らく覺醒せよ。さらば彼等猶太人の玉座は忽ち破壞せられ、彼等の榮革も名譽も信用も、亦不義の富も凡て奪はるに至るだらう。

諸君よ思へ、吾人は何故に吾人の主要なる役目を彼等政治商人なる猶太人に委ね、吾人は彼等のために肉彈とならなければならないか。世界到る處の政治に關する彼等は

自己の利益の爲めに他を陷れて走狗となし、以て其の慾を恣にしつゝ尙は且つ勞働者の味方なりと高唱して居る。

敢て問ふ、彼等は何時何處で君等の味方であつたか。諸君よ靜かに思へ、彼等は斷じて諸君の味方に非ずして正に敵なり。露獨戰爭に於ける彼等の態度又革命以來の彼等の行動を見よ、彼等は凡て反逆者ならずや。

猶太人は純然たる利己主義者であつて、惡むべきイスラエルの支族だ。吾人は彼等を汚れたる惡魔の手に交附せなければならぬ。彼は眞の共產主義者に非ず唯自己の打算を以て無智なる露人を籠絡する野心家なり。而して彼等は無類の卑劣漢なり見よ日本軍が赤衞軍より獲たる俘虜中に一人の猶太人もなく、唯我等の後方に在つて、吾人の同胞を犧牲として利得を計つたにすぎないではないか。

吾人には「自由の死」あり彈丸と共に死せん。吾人は斷じて彼等に降服せず何ぞ彼等卑劣漢の利用する所とならんや。嗚呼厚顏無恥の徒よ速かにパレステナに歸り汝等に適當なる生活を營め。

猶太種族を排せよ。反逆者を排擊せよ。

昭和六年十二月二十日印刷
昭和六年十二月廿三日發行

定價参拾錢

東京府淀橋町角筈七七
編輯兼發行人　大藪義凡

東京府杉並町高圓寺三三三
印刷人　落合義一

東京府杉並町田端一二
印刷所　株式會社杉並町報社

東京府杉並町高圓寺三三三
發行所　顯國會